

保険診療で製作する義歯のメリットとデメリット

義歯に不満はありませんか？

鎌田 俊 シュンデンタルクリニック院長

「厚みがあつて口が狭くなった」「義歯のバネに違和感がある」「食べ物の温度が分かりにくい」「舌が入れ歯に邪魔して話にくい」。義歯に不満がある場合は、皆さんがこの様なことをお話しします。

厚みがない。義歯のバネに違和感がない。料理は適切な温度で感じながら食べることができる。会話も義歯がなかった時のようにできる。そのような義歯があれば、日々の生活を楽しく過ごすことができるはずだ。

保険診療の範囲で製作された義歯は、安価で破損した際の修理が比較的簡単であることなどがメリットとしてあげられます。一方、デメリットとしては厚みがあり、壊れやすく、汚れや臭いにつきやすい、歯がすり減るなど、多くの点を挙げることができます。

国民皆保険による保険診療では、「誰でも」「どこでも」「いつでも」保険診療を受けることができます。つまり、日本国民が等しく同じレベルの治療を受けられるように設けられた制度です。

歯科の保険診療に関しては、出来るだけコストを抑え、技術料を最小限まで抑えた規格診療です。保険診療で製作する義歯は必要最小限のもので、「快適である」とか「美しさ」に関することは、重要視できないのが実際です。

健康保険と自由診療の義歯はどう違うの？

自由診療の義歯は、十分な時間と制約を受けない材料や設計により製作されることから、保険診療のルー ルの中で製作する義歯より遥かに優れています。

食べ物や飲み物の熱が伝わりやすく、自然に近い味覚を得ることも可能です。義歯自体の厚みも薄く設計できますので、馴染みやすく、発音なども比較的滑らかになります。また、自身の個性に合った歯を選択することが可能ですので、若々しい口元が得られます。さらに汚れが付きにくく、気になる臭いが少ないなど衛生面でも大きなメリットがあります。

義眼や義足を思い浮かべてみてください。義眼では物を見ることはできません。パラリンピックに出場する選手もいますが、多くの人は義足を利用して走ることは難しいのが実際です。歯は体の臓器の一部であり、義歯は人工臓器と考えてください。しかし、どんなに良い義歯を製作したとしても、自分自身の歯に勝るものはありません。



PROFILE

かまだ しゅん 平成16年岩手医科大学卒業。
平成18年岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔分野。
平成23年岩手医科大学大学院卒業(博士号取得)。平成27年秋田厚生連雄勝中央病院(非常勤)。平成28年岩手医科大学非常勤講師。同年函館市内にシュンデンタルクリニックを開院。
日本歯科麻酔学会認定医、日本顕微鏡歯科学会、
SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry、歯科スタディグループ) 理事。

